

大阪広域協組の蛮行

大山副理事長らが拠点職場の工場設備を破壊



7月8日、大阪広域協組の大山正芳副理事長が職員らを引き連れてティーワイケー高槻生コン（大阪府高槻市）に押しかけ、工場に電力を供給する電線などを切断。門扉を破壊したほか、建物やプラントなど工作物を破壊しはじめた。ミキサー車など車両はレッカー車で工場外に搬出した。

●倒産工場を関生支部が自主再建した職場

高槻生コンは関生支部の拠点職場のひとつ。1998年、倒産した工場を関生支部が譲り受け、組合員の雇用確保のため新会社を設立して再建したものだ。関生支部は解体工事禁止仮処分裁判を申し立て、反撃を開始した。

2018年、関生支部排除を打ち出した大阪広域協組は、高槻生コンに対する仕事の割当を減らし、同年4月には除名するという暴挙を振るった。しかし、除名無効の仮処分決定が出されて敗訴。その後、高槻生コンは営業を再開し、組合活動の拠点としての役割をはたしてきた。

その工場に、なぜ大山副理事長らは押しかけて蛮行を振るうことができたのか。

この蛮行の経緯と背景は次号で明らかにする。



（大山副理事長＝左端ほか、大阪広域協組の職員）